

事務局 記載欄	開設 年度	2026年度	科目 区分	社会教育主事講習 科目	科目 コード		履修 制限		単位 数	2
------------	----------	--------	----------	----------------	-----------	--	----------	--	---------	---

科目名 (メディア) = 社会教育経営論 (インターネット配信)
 英文名 = [Practical Theory of Social Education Management]
 [主任講師 (現職名) : 佐藤 晴雄 (帝京大学教授)]
 [主任講師 (現職名) : 佐々木 英和 (宇都宮大学教授)]

講義概要

本科目は、社会教育をめぐる諸課題を経営的視点から解説することによって、様々な学びの場と機会の在り方について理論的かつ実践的な理解を深めることを目的とする。
 講義では、社会教育関係職員や地域住民が社会教育施設を始めとする多様な組織・企業等と連携・協働しながら、学習成果を地域づくりや地域学校協働活動などに活かす知識・技能を習得するために必要な社会教育経営の基礎基本、社会教育行政と地域づくり、学習事業の企画運営、広報戦略、地域人材の育成・研修、学習成果の評価、地域ネットワークの形成、生涯学習関連施設の経営などを取り上げていく。

授業の目標

本科目は以下の事項を目標とする。
 ①社会教育経営の意義と行政との関係を理解する。
 ②社会教育施設や学習事業、社会教育計画など社会教育実践の在り方を各種事例も踏まえながら理解を深める。
 ③学習者の学習動機や行動の実態を踏まえつつ、広報や社会教育評価などの実践的技法について理解する。
 ④地域人材やNPO等との連携や地域学校協働活動などの最新課題に関する理解を深める。
 以上の諸点を目標としつつ、社会教育経営の今後のゆくえを考える講義としたい。

評価方法

各回に行う確認テスト (IBT: インターネットを利用したPC等での試験) の合格後に受験できる修了テスト (CBT: テスト会場のPCを利用した試験) 等により総合的に評価。

履修上の留意点

社会教育に関する基本的事項を理解するに留めず、「経営」の視点から捉えようとする科目である。

※本科目は、インターネット配信限定で視聴する社会教育主事一部指定講習専用の科目です。そのため、受講には、インターネットなどの受講環境が必要です。受講環境についての詳細は本学ウェブサイトをご参照ください。
 ※印刷教材は、「社会教育経営実践論('22)」と同じものを使用します。
 ※放送教材15時間+予習・復習30時間=45時間、印刷教材による学修45時間として計90時間を想定しています。

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
1	社会教育経営論の意義と目的	社会教育を経営論的角度から考察する意義について、社会教育活動と社会教育行政との関係性を意識しながら、理論面と実践面の双方の角度から論じていく。 【キーワード】 経営、管理、運営、教育を受ける権利、教育基本法	佐々木 英和 (宇都宮大学 教授)	佐々木 英和 (宇都宮大学 教授) ゲスト: 菊川 律子(放送大 学副学長)
2	社会教育行政の経営戦略	戦略的観点と戦術的観点との違いを意識しながら、社会教育振興の在り方について、計画化し実行・評価していくための基礎的な思考法を身につける。 【キーワード】 フォアキャスティング、バックキャスティング、ロジスティクス	佐々木 英和 (宇都宮大学 教授)	佐々木 英和 (宇都宮大学 教授) ゲスト: 島根 県教育委員 会社会教育 課職員
3	社会教育行政と地域活性化	社会教育を振興することが地域活性化につながるという諸々の現実を踏まえ、社会教育行政が首長部局などと連携を取りながら、ネットワーク型行政を進めていく実際の意義を論じていく。 【キーワード】 生涯学習まちづくり、知の循環型社会、ダイバーシティ	佐々木 英和 (宇都宮大学 教授)	佐々木 英和 (宇都宮大学 教授)

回	テーマ	内容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
4	社会教育施設の経営	社会教育行政の役割と、学習の機会・場を提供する公民館等の社会教育施設の経営について、その理論と実践事例を通して今後の在り方を論じていく。 【キーワード】 教育委員会、生涯学習、公民館、学習機会	佐藤 晴雄 (帝京大学教授)	佐藤 晴雄 (帝京大学教授)
5	社会教育計画の企画・立案・実施	生涯学習振興の基盤づくりとして、社会教育計画を策定する意義を確認した上で、計画を企画・立案するための手法や、進捗管理する際の実施手順などについて論じていく。 【キーワード】 教育振興基本計画、基本計画、実施計画、PDCAサイクル	佐々木 英和 (宇都宮大学教授)	佐々木 英和 (宇都宮大学教授) ゲスト:下道敏行(東京都稲城市教育委員会生涯学習課社会教育主事)
6	社会教育事業の意義と評価方法	社会教育を事業化する手順を学ぶとともに、事業を評価することの意義について、準備・実施・事後の各段階に応じて論じていく。 【キーワード】 インプット、アウトプット、アウトカム、ゴール、効率、効果	佐々木 英和 (宇都宮大学教授)	佐々木 英和 (宇都宮大学教授) ゲスト:近藤真司(日本青年館編『社会教育』編集長)
7	学習動機と学習課題の設定	地域住民の学習課題を要求課題と必要課題の二つの視点からくみ取る方法について、社会教育調査の在り方とノウハウを中心に取り上げる。 【キーワード】 学習動機、要求課題、必要課題、現代的課題、社会教育調査	佐藤 晴雄 (帝京大学教授)	佐藤 晴雄 (帝京大学教授)
8	学習プログラムの経営ー企画・運営の在り方と技法ー	社会教育・生涯学習における学級・講座・教室等の学習プログラムの企画・運営の実際のノウハウを取り上げていく。特に、学習事業担当者の視点に重きを置く。 【キーワード】 学級・講座、企画・運営、学習事業計画、魅力ある学習事業	佐藤 晴雄 (帝京大学教授)	佐藤 晴雄 (帝京大学教授) ゲスト:鈴木廣志(前栃木市立大平中央小学校長)
9	学習事業の広報の在り方	社会教育振興の目的と関連付けて学習事業の広報活動を戦略的に展開する意義について、「学習者との縁づくり」という観点から論じるとともに、各種戦術や具体的スキルを展開する。 【キーワード】 メディア特性、メディアミックス、SNS、ロコミ	佐々木 英和 (宇都宮大学教授)	佐々木 英和 (宇都宮大学教授) ゲスト:乾喜一郎(ルート進学総研主任研究員)

回	テーマ	内 容	執筆担当 講師名 (所属・職名)	放送担当 講師名 (所属・職名)
10	学習の成果活用と評価	<p>個々の学習者が、ただ学習するだけでなく、それを発揮することの意義を確認した上で、そうした成果を社会的に評価したり活用したりする際の可能性や課題について論じていく。</p> <p>【キーワード】 教育者、学習者、活躍、生涯学習ボランティア、人材バンク</p>	佐々木 英和 (宇都宮大学 教授)	佐々木 英和 (宇都宮大学 教授)
11	地域人材の活用と養成の在り方	<p>実践事例に学びながら、地域住民等によるボランティアやコーディネーターの育成や資質向上の在り方を論じていく。</p> <p>【キーワード】 オープンシステム、コーディネーター、学習ボランティア、ファシリテーター、学習事業</p>	佐藤 晴雄 (帝京大学教 授)	佐藤 晴雄 (帝京大学教 授)
12	社会教育経営に資する職員の技法	<p>職員をはじめとした人材こそが経営の実質的内容であり要であることを踏まえ、各人がコーディネート能力・ファシリテーション能力・プレゼンテーション能力などをスキルアップする方法を論じる。</p> <p>【キーワード】 社会教育主事、ファシリテーター、ネットワーク構築能力</p>	佐々木 英和 (宇都宮大学 教授)	佐々木 英和 (宇都宮大学 教授)
13	地域学校協働活動の組織と経営	<p>学校支援活動や地域活性化活動を推進する地域学校協働活動の事例を取り上げながら、その運営の工夫点について検討していく。</p> <p>【キーワード】 学校支援、放課後子ども教室、地域未来塾、地域の活性化、家庭教育支援、コミュニティ・スクール</p>	佐藤 晴雄 (帝京大学教 授)	佐藤 晴雄 (帝京大学教 授)
14	NPO・企業等との連携・協働	<p>NPOや企業・地域団体等が社会教育の推進にどう関わらべきかを考えるために、実践事例を検討し、その課題と成果の共有化を図る。</p> <p>【キーワード】 NPO、企業、指定管理者、中間支援組織、連携の段階</p>	佐藤 晴雄 (帝京大学教 授)	佐藤 晴雄 (帝京大学教 授) ゲスト:柴田 彩千子(東京 学芸大学准 教授)
15	社会教育の「経営」をめぐる今後の展望	<p>生涯学習社会における社会教育施設・学習事業の経営の在り方を整理し、コミュニティ・スクールや地域学校協働本部との一体的運営の方向性を踏まえながら、今後の社会教育経営の課題やゆくえについて取り上げる。 最後に、佐藤講師と佐々木講師の対談により、学習を振り返ることとする。</p> <p>【キーワード】 危機管理、ネットワーク組織、内在的価値、手段的価値</p>	佐藤 晴雄 (帝京大学教 授)	佐藤 晴雄 (帝京大学教 授) 佐々木 英和 (宇都宮大学 教授)